



奥多摩の暮らしを感じる新たな旅 期間限定「沿線まるごとホテル」とは？

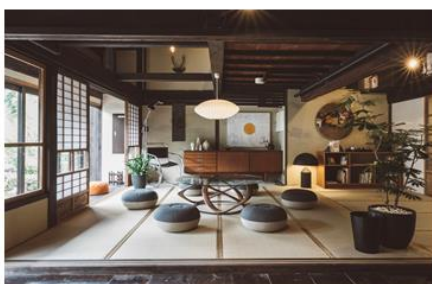
「1つの鉄道、2つの駅、3つの集落」を楽しむ「沿線まるごとホテル」プロジェクトの実証実験が今年2月にスタート。舞台はJR青梅線沿いの奥多摩エリアです。無人駅でのチェックイン、集落散策、そして古民家滞在。加えて、地域活性化、生活観光、マイクロツーリズムと気になるワードが満載！どんなプランなのかチェックしてきました！

JR青梅線に乗り、旅は、チェックインの場として指定された白丸駅からスタート。通常は無人駅ですが、ホームに降りると、フロントに見立てた待合室を背にスタッフが温かく迎えてくれました。本プランで訪れる集落は、白丸、境、そして中組の3つ。そのうち白丸集落は生まれも育ちも白丸という住民の方、境集落はおくたま地域振興財団のプロのガイドが案内してくれました。集落の歴史や現在の暮らしを伺いつつ辺りを散策。この日は残念ながら雨でしたが、山間に薄い雲が漂う墨絵のような景色が広がっていました。晴れの日は異なる眺めもまた一興です。手掘りトンネル・数馬隧道や境(祥安寺)の清泉、白髭神社などにも立ち寄り、2つの集落巡りを終え、といよいよ宿へ。山梨県は小菅村中組集落に位置する「NIPPONIA 小菅源流の村」です。築150年の養蚕農家邸宅は、立派な日本家屋の趣はそのままに、デザイン性のある家具でモダンな雰囲気。時間の許す限り部屋でゆっくり休むもよし、近くの温泉「小菅の湯」で癒されるもよし。ひと息いたら敷地内の「源流懐石24SEKKI」に移動して、待ちに待った夕食です。普段は村内の食材を地域に伝わる調理法で提供するそうですが、本プランでは青梅産食材も使った“沿線ガストロノミー”をいただきます。春の訪れを感じるメニューはどれもこれも美味しくお腹いっぱい、幸せな気持ちのまま眠りにつきました……。翌日は部屋で朝食を終えたら11時までフリー。オリジナルのお散歩マップ片手に周辺を散策し終えると、チェックアウトの場であるJR奥多摩駅まで車で送っていただきました。



都心から離れ、自然と触れ合い、密を避けたコロナ対策とも思えるプラン内容ですが、企画が持ち上がったのは実は一年以上も前。本格的に始動したのは、昨年11月のことだそうです。「NIPPONIA 小菅源流の村」番頭の谷口さんに詳しいお話を伺いました。

「『沿線まるごとホテル』は無入駅周辺地域の活性化を目標としたプロジェクトで、本プランはその実証実験です。巡っていただく地域には、温泉や物産館があって、色々な特技を持つおじいちゃん、おばあちゃんがいる。いわゆる観光スポットはありませんが、生活に密着した“村ならではの魅力”が散らばっています。そういった元々地域にあるものを資源と捉え活用しています。住民の方自身に集落を案内いただくのもその一つ。また、白丸駅をチェックインの場に選んだのは私ですが、その理由は、都内JRの駅の中で1番利用客数が少ない“最も無人駅”だから。さらに、電車の車窓から望む鳩ノ巣～白丸駅間の景色が魅力的で。緑に包まれた渓谷を過ぎ、トンネルを抜けて駅に到着。ここで、日常から非日常へとスイッチするよう感じられるんです。近年、特に奥多摩エリアは、アウトドア好きから人気ですが、古里や鳩ノ巣ら20ほどの集落から成っているなど、暮らしの側面にスポットが当たることは中々ない。しかし本プランでは、“生活観光”という新たな旅のあり方によって皆さんを呼ぶことができました。現在は、青梅線沿いの空き家となった古民家を改装した宿を作ること計画中です。今後の展開にご期待ください。」



無人駅や空き家を活用し、さらに一帯をホテルとすることで分散しているハードルを感じさせず、むしろワクワクする行程となっているこのプラン。地元の方や食材を通して暮らしを知り、なるほど、今まで知らなかった奥多摩エリアの魅力に出会うことができました。また、コロナ禍でも安心して楽しめる、時勢にあった素晴らしい取り組みでもありました。プランの継続は未定とのことですが「NIPPONIA 小菅源流の村」の利用は可能です。ぜひこちらもチェックしてみてくださいね。

【沿線まるごとホテル】

取材協力・写真提供:株式会社さとゆめ

JR東日本スタートアップ株式会社、株式会社さとゆめ、東日本旅客鉄道株式会社八王子支社の3社によるプロジェクト。実証実験である体験・宿泊プラン「無人駅からはじまる、源流への旅」は、2021年2月17日～4月20日まで行われた。